

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100172		
法人名	株式会社 権兵衛		
事業所名	グループホーム ごんべえ(1Fユニット)		
所在地	静岡県焼津市塩津135-1		
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2295100172-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年 2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多職種(PT、看護師)と連携をとり、アウトカムを意識した支援に力を入れている。今後、OTとの連携も視野にいれている。生活面では利用者が自ら主体となって生活できるよう職員は利用者の意欲を大事にしている。食事作り、その他家事は利用者が中心となって行っている。職員配置に環境整備、調理師を配置しているため、利用者主体の生活が可能となっている。今年度より、株式会社権兵衛法人全体で各種委員会を発足したため、(食事、災害対策、事故・感染予防、広報・啓発)等事業所内での課題や対策などを話し合う機会を持てるようになった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人ではキャリア段位制度を導入するにあたり2名の職員をアセッサーとなるべく支援し、不定期ですが代表者が職員に直接訓示、教育指導をおこなう「虎の穴研修」が実施されるほか各種委員会を発足させ、また職務規程の整備も進んでいて、「向上していこう」という気運が感じられる事業所です。年3回開催の家族会では会食もおこないつつ家族には食事介助を体験してもらえ、他にもサービス担当者会議も家族と膝を交えることが叶い、親交が深まっています。本年防災訓練は大いに前進し、通常の法定訓練2回その他、月2回様々なメニューに取組んでおり、自治会の防災の集まりにも今度参加していくことになっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	重度化に伴い利用者のできない事が増えてきている現状があるが、息詰まった時、理念にある諦めない精神で、利用者と向き合っている。	理念はいつも立ち返るものとして浸透しており、また不定期ですが代表者が職員に直接訓示、教育指導をおこなう「虎の穴研修」が実施され、そこでも理念に係ることが語られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事(文化祭)や年3回の防災訓練に職員、ご利用者様含め、参加しています。併設している駄菓子屋を通じて、地域住民や子供たちとご利用者様の交流を図ることができています。	3月、8月、9月にある地域防災訓練には利用者と参加を続け、事業所の車いすも貸し出し、「ごんべえさんだね」と声をかけてもらえるまでになっています。また併設の駄菓子屋は述べ人数1000名を越え、納涼祭には8名の高校生のサポートがありました。	本年度は認知症サポーター養成講座を開催する予定となっていますが、年度末も迫り無理なようですので、来期の実現を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉大学のセミナーで、ホームのケアについて発表の機会があった。今年度中に認知症サポーター養成講座を開催予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施できている。ホームで抱えている現状や懸案事項、防災対策についてご意見を頂いている。ご家族には、サービスに対するの感想もお聞きできる機会となり、充実している。近所の他事業所にも声を掛け参加していた。今後も継続していく。	メンバーには行政、地域のほかに他事業所のケアマネージャーの出席を得ていて、過去には目の前にある小学校の校長先生に参加してもらったこともあります。事故報告も詳らかに発表して、活動状況はカラー写真でプリントして理解を求めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の方からは当ホームを気にかけていただき、相談しやすい環境を頂いている。今年度は実地指導もあり、細かいご指導もいただきました。	運営推進会議だけでなく、現在は新しい事業所がスタートすることでより関わりをもってもらえています。またグループホーム連絡会並びに地域密着型事業所の集まりにも出向き、介護相談員の定期訪問もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの取り組みとして、定期的に(3ヶ月に1回)介護方法のチェックを行っている。また自己点検チェック表も使用し身体拘束の正しい理解に努めている。	玄関は常にオープンで、ユニットは2階に転落防止の柵がありますが施錠はありません。身体拘束に係ることだけでなく尊厳、接遇分野の項目も含み、3ヶ月に1度自己チェックをおこない、意識の継続に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記の介護方法チェック後の取り組みとして、改善する為のルールを職員たちで決定し、お互いがおかしいと感じるケアについて注意をしようという課題を儲けて、虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長は現在介護支援専門員の実務研修に参加中であり、権利擁護に関する学びを深めている。当ホームでは成年後見制度を利用中の利用者は1名だが、職員からの学びたいという声も聞かれているので、今後研修の機会を持つ予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書等は丁寧に説明し、質問があった場合もご理解いただけるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々面会時などご意見を頂く機会あり。また、行事や家族会の際、貴重なご意見を頂けている。頂戴した内容は直ぐに職員と共有し今後の運営に反映させている。	クリスマス会と併催するといった工夫もおこない、家族会は年3回実施しています。家族は話す人、余り口にしない人と其々ですが、普段の面会や受診介助の機会に情報交換が叶っていて、インスタグラムも始めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度より、法人全体で各種委員会を発足した。他職種や、職員の意見を反映させている。	有給消化率も高い一方で、キャリア段位制度を導入するにあたり2名の職員がアセッサーとなり、また職務規程を整備する取組みもあり、職員を取り巻く環境が向上しています。全体会議は介護職だけとせず、厨房担当者も参加して、皆で話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務基準作成中。キャリアパス制度を導入する為当ホームではアセッサーが2名誕生した。事業所内のミニ研修では、キャリア・アンカーで自己診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会による法人全体の研修や職員のレベルににあった研修への参加ができていく。キャリア段位制度導入。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会やケアマネ年収階への参加あり。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やご本人の聞き取りを丁寧らせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークでは利用者のご家族のニーズに耳を傾け、不安な点は何度もご説明差し上げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の聞き取りの中で、必要と考えられる支援について他職種も含め検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者自ら率先して家事活動を行っている姿もあり、職員と共に活動できている。ごんべえ畑は利用者からの農家の知恵などを生かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランにも家族の支援をインフォーマルサービスとして入れている。サービス担当者会議ではご家族の要望やご家族にお願いしたい事もお伝えし家族の参加を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の慰労会や、敬老会への参加がご家族の協力のもと継続出来ている。ご家族と外出の機会も多い。	家族は何かにつけ自宅に連れ帰ってくれていて、「(自宅で過ごせるよう)元気でいさせて欲しい」との言葉が異口同音に届いています。住んでいた地区の慰労会に毎回出かけていたり、大半の利用者が家族とドライブや外食を愉しめています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士自然に会話や助け合いが見られていおり。気分の落ち込みなどがある時は、ユニットを超えた支援も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や死去後もご家族の来所あり、近況や挨拶に見えていただく事あり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常や、サービス担当者会議で、家族、本人への聞き取りを行っている。意思の疎通困難な方の場合、その方を良く知るご家族や、ケアに携わる全ての職員から情報を集め検討している。	生活歴は入所時に聞き取っていますが、増やしてゆけるよう家族に聴いて増やしていくことを念頭に置いています。また普段から「私の願い」「注目して欲しい行動」等が記載できるオリジナルのシートを使った情報整理がおこなわれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク以外にも、更新時などに聞き取りを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り以外に状態観察や排泄、睡眠状況の統計を取るなどして状態の把握に努めている。他職種連携でPTからも助言をいただき、持てる力が発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は毎月立てている。ユニット会議でモニタリング実施し、その月の目標の話し合いを行っている。介護職員は計画の立案で大変苦労しているため、今後研修を組むなどしていきたい。	計画作成担当者となれる職員も5名と豊富なこともあり介護職員が細かなプランを立てていて、介護保険に係る介護計画書は職員のプランを集約して各ユニットの計画作成担当者がつくっています。	現在は家族が大きく関わってくださっていて課題とはいえませんが、介護計画書に本人の想いの実現が加わっていくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項は業務日誌に記載し申し送り等で共有している。細かいケア方法に関しては、ユニット会議で話し合い統一している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	退院後の支援として一時的な対応ではあるが危険防止の為、フロアに畳みを用意するなど柔軟な対応を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の清掃活動や文化祭など自分の役割を持ち参加出来ている。併設の駄菓子屋では店番を通して自らが地域資源となって活躍している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢、重度化に伴い訪問診療に切り替えた方もおられる。受診時歯、経過と特記事項をまとめた用紙を提出し、かかりつけ医へ情報提供を行っている。	在宅の頃のかかりつけ医から6割が訪問診療のある協力医に変更しています。専門医全般と従来の医師を継続している利用者の通院介助は家族にお願いし、データなどは事業所で提供し、何かあれば医師のメモが届いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤は週2~3日。出勤日以外も電話にて相談が可能になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時歯早急に病院へ利用者情報を提供している。入院中適宜、地域連携室に状態確認の電話を入れている。病院側とホームとの情報交換がスムーズに行えた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス担当者会議や状態が大きく変化しそうな時は常に看護師や主治医を交え意向を確認している。必要に応じて主治医からの説明もあり。PT,管理栄養士などの支援も行いながらチームで取り組んでいる。	看取りをおこなう事業所として家族と合意形成できていて、希望があれば対応できる態勢にあります。看取りに入るとバイタルをとる回数が増えたりと職員が過剰に反応しがちなこともあり、都度管理者や看護師がケースバイケースで助言しており、回を重ねて成長が見られます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡方法に関しては周知している。救急手当や初期対応の訓練は実施できていない。管理者、看護師、主任はでき、誰かが常にいる状態をつくっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の法定訓練を実施し、消防関係、地域住民の方にも参加して頂き、様々な視点から改善に向けてのご意見を頂いたので、来年度の訓練で改善につなげていきたいと思っています。今年度より、発足した災害対策委員会との連携を図り、法人内の他事業所含め、計画を作成してまいります。	防災訓練は法定訓練2回その他、月2回様々なメニューに取り組んでおり、さらに本年は2点が大きいに前進しています。①自治会長にも協力を得て、自治会の防災の集まりにも今度参加していくことになっている ②アルファ米、水などの備蓄を揃えらるとともに試食もおこなっている	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉掛けを行っている。トイレや入浴では不必要な露出をさけるようタオルをかけるなどの配慮を行っている。	本人の癖や特徴を踏まえ、声掛けや受け答えが優しく、思いやりがあることを視認しました。ただ、調理専任者がいることで食事前の手持無沙汰感があったり、1階の厨房から2階に食事を運んだあとの盛り付けでの煩雑な雰囲気と、時間で空気感が変わることは気になります。	掲示の写真にいまどきの落書き的な加筆が見られたので、一度職員間で尊厳に係りはしないか等話し合うことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる方には自己決定して頂いている。発語のない方にも言葉掛けを行い、反応や普段の様子、情報から決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に希望を聞くようにしている。職員側の決まりや都合が優先になっていないか定期的にチェックをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の衣類の選択は本人に伺ったり本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はほぼ毎日行っている。おやつ作り、餅つき、バーベキュー等も実施し食事が楽しみになるような催しも行っている。	専任調理師がいて、調理方法や味付けが手慣れているながらも家庭的な温かみのある献立です。食事介助が必要な人も増えていて、1名の職員が間に入って2名を担当しなくてはならない状況もありますが、「○○ですよ～」と声をかけながら、飲み込みをみて刻みに替えたりしています	刻みの鉄を使うことについては、利用者本人が「(皿を)とられた！」と思う場合はいたしかたありませんが、できる限り一度下げることが期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表で水分量、食事量の把握を行っている。看護師からの助言や管理栄養士からの助言もあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。利用者様の状態に合わせて、ケアを行い、ケア後は職員が口腔内を確認しています。外部より招いて口腔ケアの研修を実施しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者様の体調や尿量、食事量を見ながら、定時誘導や利用者様が自発的に排泄が行えるよう支援しています。	時間で声をかけたり、癖や表情で人によって支援方法はまちまちですが、自立の人も声をかけないと向かっていくことがないため、全員つけている排泄チェック表が役立っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢に伴い、体力の低下や運動不足により、便秘いなる方がいます。看護師と連携を図り、利用者様にあった排泄ペースが保たれるよう改善に向け取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のペースで入浴を行っている。声かけを行い、同意を頂いてからお誘いするようにしている。季節に応じて、ゆず風呂や入浴剤を使用し、季節感を楽しめるよう支援しています。	1階の浴室はやや広めで、2階は単身者用のスペースでやや狭く感じますが、特段使い分けることはせず、上下で日々使用しています。上下隔日でおこなっているため、どちらかが湯を張っていて、拒否があれば日程を交換しあうこともできます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態に応じて、休息する時間を提供しています。利用者様に確認、同意を得てから休息するよう心がけています。急な体調変化の際には、看護師と連携を図り、利用者様に休息を勧めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報がすぐに確認できるようファイリングしている。変更のある時は、看護師からの服薬に関する指示や注意事項がそえられる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力の把握につとめ、それぞれにあった活動や役割を提供しています。一人ひとりのペースにあわせて行えるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所のパン屋やスーパーに自分の欲しい物を購入しに出かけている。家族の協力もあり、自宅へ帰る機会や受診の帰りに軽食を摂ったりドライブにも行っている。認知症カフェなどにも参加している。	主に午前中を散歩タイムとして、天候がよければ戸外にでています。4月(桜)5月(藤)は蓮花寺にお弁当をもって遠足にでかけ、秋は藤枝の菊花展など、車輛を使った外出支援もおこなっています。	2階が1階に比べ便秘がちとのことで、戸外にでることや歩行訓練に差がないか一度検証することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	併設の駄菓子屋で自分の財布からお菓子を購入する方もおられる。基本はホーム預かり。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は書ける利用者は自ら記入している。電話をかけたいという利用者はおられなかった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、整理整頓を心掛け、利用者様が気持ちよく過ごせるようにしています。	掃除用具が廊下スペースに置かれたまま(所定配置ならなおさら要改善)となっていたり、隅や目立たない箇所に埃があるものの、掲示は若い(職員の)躍動感を感じる彩があります。	2階は退院したばかりでふらつき等心配の残る利用者の布団がリビングに敷かれたままでしたので、(日中敷いたままとせず)夜間のみとするか、カバーを掛けるとか、工夫と配慮を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル等で気の合った方と過ごせるように誘導するなど配慮している。一人でゆっくり音楽を聴かれる方には音量にも配慮しながらラジカセ横に居場所をおつくりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具などをお持ちいただき、ご本人の生活に合わせた環境になっている。オムツなどがむき出しにならない様に、布で隠したりケースに入れている。	事業所が用意するのはエアコンとカーテンのみのため、その人らしい物が持ち込まれる体制にあります。近年は退所者が照明器具等そのまま置いていったものを流用するケースもあります。ただし、事業所では持ち込んだ備品や衣類等は必ず数を記録しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に張り紙をするなどの工夫をし、位置が解りやすい様にしている。手すりを新たに設置し安全や自立に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100172		
法人名	株式会社 権兵衛		
事業所名	グループホームごんべえ(2Fユニット)		
所在地	静岡県焼津市塩津135-1		
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2295100172-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年 2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多職種(PT、看護師、管理栄養士)と連携をとり、アウトカムを意識した支援に力をいれている。今後、OTとの連携も視野にいれている。生活面では利用者が自ら主体となって生活できるよう職員は利用者の意欲を大事にしている。食事作り、その他家事は利用者を中心となって行っている。職員配置に環境整備、調理師を配置しているため、利用者主体の生活が可能となっている。今年度より、株式会社権兵衛法人全体で各種委員会を発足したため、(食事、災害対策、事故・感染予防、広報・啓発)等事業所内での課題や対策などを話し合う機会を持てるようになった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人ではキャリア段位制度を導入するにあたり2名の職員をアセッサーとなるべく支援し、不定期ですが代表者が職員に直接訓示、教育指導をおこなう「虎の穴研修」が実施されるほか各種委員会を発足させ、また職務規程の整備も進んでいて、「向上していこう」という気運が感じられる事業所です。年3回開催の家族会では会食もおこないつつ家族には食事介助を体験してもらえ、他にもサービス担当者会議も家族と膝を交えることが叶い、親交が深まっています。本年防災訓練は大いに前進し、通常の法定訓練2回その他、月2回様々なメニューに取組んでおり、自治会の防災の集まりにも今度参加していくことになっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	重度化に伴い利用者のできない事が増えてきている現状があるが、息詰まった時、理念にある諦めない精神で、利用者と向き合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事(文化祭)や年3回の防災訓練に職員、ご利用者様含め、参加しています。併設している駄菓子屋を通じて、地域住民や子供たちとご利用者様の交流を図ることができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉大学のセミナーで、ホームのケアについて発表の機会があった。今年度中に認知症サポーター養成講座を開催予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施できている。ホームで抱えている現状や懸案事項、防災対策についてご意見を頂けている。ご家族には、サービスに対するの感想もお聞きできる機会となり、充実している。近所の他事業所にも声を掛け参加していた。今後も継続していく。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の方からは当ホームを気にかけていただき、相談しやすい環境を頂けている。今年度は実地指導もあり、細かいご指導もいただいた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの取り組みとして、定期的に(3ヶ月に1回)介護方法のチェックを行っている。また自己点検チェック表も使用し身体拘束の正しい理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記の介護方法チェック後の取り組みとして、改善する為のルールを職員たちで決定し、お互いがおかしいと感じるケアについて注意をしようという課題を儲けて、虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長は現在介護支援専門員の実務研修に参加中であり、権利擁護に関する学びを深めている。当ホームでは成年後見制度を利用中の利用者は1名だが、職員からの学びたいという声も聞かれているので、今後研修の機会を持つ予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書等は丁寧に説明し、質問があった場合もご理解いただけるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々面会時などご意見を頂く機会あり。また、行事や家族会の際、貴重なご意見を頂けている。頂戴した内容は直ぐに職員と共有し今後の運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度より、法人全体で各種委員会を発足した。他職種や、職員の意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務基準作成中。キャリアパス制度を導入する為当ホームではアセッサーが2名誕生した。事業所内のミニ研修では、キャリア・アンカーで自己診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会による法人全体の研修や職員のレベルににあった研修への参加ができていく。キャリア段位制度導入。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会やケアマネ年収階への参加あり。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やご本人の聞き取りを丁寧らせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークでは利用者のご家族のニーズに耳を傾け、不安な点は何度もご説明差し上げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の聞き取りの中で、必要と考えられる支援について他職種も含め検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者自ら率先して家事活動を行っている姿もあり、職員と共に活動できている。ごんべえ畑は利用者からの農家の知恵などを生かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランにも家族の支援をインフォーマルサービスとして入れている。サービス担当者会議ではご家族の要望やご家族にお願いしたい事もお伝えし家族の参加を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の慰労会や、敬老会への参加がご家族の協力のもと継続出来ている。ご家族と外出の機会も多い。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士自然に会話や助け合いが見られていおり。気分の落ち込みなどがある時は、ユニットを超えた支援も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や死去後もご家族の来所あり、近況や挨拶に見えていただく事あり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常や、サービス担当者会議で、家族、本人への聞き取りを行っている。意思の疎通困難な方の場合は、その方を良く知るご家族や、ケアに携わる全ての職員から情報を集め検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク以外にも、更新時などに聞き取りを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り以外に状態観察や排泄、睡眠状況の統計を取るなどして状態の把握に努めている。他職種連携でPTからも助言をいただき、持てる力が発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は毎月立てている。ユニット会議でモニタリング実施し、その月の目標の話し合いを行っている。介護職員は計画の立案で大変苦勞している、今後研修を組むなどしていきたい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項は業務日誌に記載し申し送り等で共有している。細かいケア方法に関しては、ユニット会議で話し合い統一している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	退院後の支援として一時的な対応ではあるが危険防止の為、フロアに畳みを用意するなど柔軟な対応を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の清掃活動や文化祭など自分の役割を持ち参加出来ている。併設の駄菓子屋では店番を通して自らが地域資源となって活躍している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢、重度化に伴い訪問診療に切り替えた方もおられる。受診時歯、経過と特記事項をまとめた用紙を提出し、かかりつけ医へ情報提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤は週2~3日。出勤日以外も電話にて相談が可能になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時歯早急に病院へ利用者情報を提供している。入院中適宜、地域連携室に状態確認の電話を入れている。病院側とホームとの情報交換がスムーズに行えた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス担当者会議や状態が大きく変化しそうな時は常に看護師や主治医を交え意向を確認している。必要に応じて主治医からの説明もあり。PT,管理栄養士などの支援も行いながらチームで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡方法に関しては周知している。救急手当や初期対応の訓練は実施できていない。管理者、看護師、主任はでき、誰かが常にいる状態をつくっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の法定訓練を実施し、消防関係、地域住民の方にも参加して頂き、様々な視点から改善に向けてのご意見を頂いたので、来年度の訓練で改善につなげていきたいと思っています。今年度より、発足した災害対策委員会との連携を図り、法人内の他事業所含め、計画を作成していきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉掛けを行っている。トイレや入浴では不必要な露出をさけるようタオルをかけるなどの配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる方には自己決定して頂いている。発語のない方にも言葉掛けを行い、反応や普段の様子、情報から決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に希望を聞くようにしている。職員側の決まりや都合が優先になっていないか定期的にチェックをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の衣類の選択は本人に伺ったり本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はほぼ毎日行っている。おやつ作り、餅つき、バーベキュー等も実施し食事が楽しみになるような催しも行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表で水分量、食事量の把握を行っている。看護師からの助言や管理栄養士からの助言もあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。利用者様の状態に合わせて、ケアを行い、ケア後は職員が口腔内を確認しています。外部より招いて口腔ケアの研修を実施しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者様の体調や尿量、食事量を見ながら、定時誘導や利用者様が自発的に排泄が行えるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢に伴い、体力の低下や運動不足により、便秘いなる方がいます。看護師と連携を図り、利用者様にあった排泄ペースが保たれるよう改善に向け取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のペースで入浴を行っている。声かけを行い、同意を頂いてからお誘いするようにしている。季節に応じて、ゆず風呂や入浴剤を使用し、季節感を楽しめるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態に応じて、休息する時間を提供しています。利用者様に確認、同意を得てから休息するよう心がけています。急な体調変化の際には、看護師と連携を図り、利用者様に休息を勧めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報がすぐに確認できるようファイリングしている。変更のある時は、看護師からの服薬に関する指示や注意事項がそえられる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力の把握につとめ、それぞれにあった活動や役割を提供しています。一人ひとりのペースにあわせて行えるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所のパン屋やスーパーに自分の欲しい物を購入しに出かけている。家族の協力もあり、自宅へ帰る機会や受診の帰りに軽食を摂ったりドライブにも行っている。認知症カフェなどにも参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	併設の駄菓子屋で自分の財布からお菓子を購入する方もおられる。基本はホーム預かり。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は書ける利用者は自ら記入している。電話をかけたいという利用者はおられなかった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、整理整頓を心掛け、利用者様が気持ちよく過ごせるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル等で気の合った方と過ごせるように誘導するなど配慮している。一人でゆっくり音楽を聴かれる方には音量にも配慮しながらラジカセ横に居場所をおつくりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具などをお持ちいただき、ご本人の生活に合わせた環境になっている。オムツなどがむき出しにならない様に、布で隠したりケースに入れている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に張り紙をするなどの工夫をし、位置が解りやすい様にしている。手すりを新たに設置し安全や自立に配慮している。		